

令和7年度 府中市立府中第二中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 市学力調査の結果が市の平均より 1.7 ポイント下回っている。特に、物語文の読解に課題が見られる。 漢字など決められた範囲を学習することはできるが、それが定着できていない。 答えがある問いに対してはよく答えるが、自分で考えたり表現したりすることには消極的な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘り強く繰り返し学習する機会や、見通しをもって自己調整しながら学習する機会を設定し、基礎学力の定着を図る。【発見・決定】 既習事項や知識・経験と結び付けたり、文章中から根拠を見つけたりして自分の考えをもてるように指導と評価を工夫する。【決定・表現】 	B	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 市学力調査の結果では全体平均と比べ、3.5 ポイント下回っている。特に文章問題において無回答の割合が高い。 応用問題では式の意味と図との関連性を見いだすことや文章や図の読み取りを苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算問題では途中式をしっかりと記述させ、解答をどのように導き出したのか説明できるようにする。【発見・表現】 応用問題では何が問われているのかななどを明確にして解法の筋道をたてる。またペア・グループワークを通して共有する事で、問題に対する理解を深めて問題解決に繋げる。【対話・表現】 	A	
理科	<p>自分の考えを文章や言葉に表すことが難しい。話し合ううえでも困難が伴う。 家庭学習時間が少なく、基礎・基本の定着が弱い。</p>	<p>他者の考察を共有し、考えと理解を深める時間を設ける。【対話・表現】</p> <p>小テストを増やし、復習を促す。</p>	A	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の用語や社会的事象について、小テストなどを通して習得しようと努力できる生徒もいる。また、話し合い活動にも積極的に取り組むことができる生徒も多い。しかし、考えたことなどを自ら表現できる生徒はとても少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着の取り組みは継続しつつ、資料の読み取りや複数の資料の考察など、スモールステップで社会的事象を考えさせると同時に、考察した内容を発言以外の様々な表現方法で表現できる課題を工夫していく。【発見・対話・表現】 	B	
音楽	<p>他人から見た自分を意識し始め、表現すること（歌うこと）に対する恥ずかしさを抱えた生徒たちに、歌うことの楽しさを感じさせ、抵抗感をなくすことが課題である。</p>	<p>苦手な生徒でも安心して活動できる環境づくりを行う。できたことを指摘し、前向きな言葉かけで自信をつけさせる。</p>	A	
美術	<ul style="list-style-type: none"> 少ない時数の中で計画的に取り組み、作品を仕上げ完成させるために学習進度を調整することが難しい。 主題から発想を広げ、既存のものに捉われず、さまざまなものを組み合わせ、自分らしくよりよいものを表現するための構想を練る力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT 機器で授業の提出締め切りを周知することや授業の残りの回数などを授業毎に伝えるなど、計画的に取り組むことができるような環境を整える。【決定】 自分らしい表現ができるように表現技法や色の基礎知識の紹介、助言などを継続的に行う。【発見・対話】 	A	
技術	<ul style="list-style-type: none"> 目の前にある実物の図面を書く際に、空間を捉えることができず図を描けない生徒が多いた。 知識として身に着けたものが断片的になっており、それぞれの相関性を理解していない生徒が多いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 3DCAD を活用し、多角的にモノを捉えられるようにしていく。【発見・決定】 日々新しいものを学ぶ中で過去に学んだものと繋げられるような提示の仕方をしていく。【発見・表現】 	A	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験の差が大きく、裁縫などの実技につまずく生徒が多い。分からないときに「教師に聞く」という解決方法をとる生徒が多い。 基礎的な知識の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートで手順方法のポイントを確認させ、動画を各自タブレットでも確認し、グループでも教え合えるようにする。また、実物模型も用意し、技能定着のための様々な方法を用意する。【発見・対話】 フォームで、授業内容をワークシートにそった形で出題し回答させる。書くことによるインプット、回答によるアウトプットをさせ、知識の定着を図る。【決定・表現】 	B	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の技能に自信がなく、積極的に挑戦しようとする姿が見られない生徒が多い。また、苦手意識があり、できない事を、できるようになろうと、粘り強く取り組む姿勢が見られる生徒が少ない。 毎授業で各種目のねらいに応じた目標や実技のポイントを説明しているが、そのときに人に体を向けて、顔を上げて話を聞くことが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身の挑戦を認められて、安全に活動することができて、課題解決のために挑戦できるスモールステップで行える練習場所の設置をする。また、ICT を活用したり、対話を通したりした振り返り活動を充実させ、成功体験、達成感を味わわせ、新たな技能習得、課題発見や解決に繋げていく。【対話・表現】 話を聴く場所や方法の工夫を行うとともに、話は短く的確に行う。また、視覚的にも分かりやすく提示をするようにしていく。【発見・決定】 	A	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 小学校とのギャップが大きい「書くこと」に抵抗感をもっている生徒が多い。 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の四技能を学習する機会をバランスよく確保することが教員の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞いた内容について書いたり、読んだ内容について書いたりする等、四技能横断的な学習カリキュラムを組むことで、「書くこと」への苦手意識を減らすことができるよう工夫する。【対話・表現】 単元毎に達成すべき目標を兼ねたパフォーマンステストを設定し、生徒が目的をもって学習できるよう工夫する。【発見・決定】 	A	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第二中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・ 単元や教科書の進度に見通しをもって学習に取り組む生徒がいる一方、それぞれの単元で何を学んでいけばいいのかの理解ができていない生徒もいる。 ・ 自分の考えをもつための根拠やそれらを結び付けて理由づけについて一貫性をもって発言できる生徒が少ない。	・ 見通しをもった学習を進められるように学期の始めに学習予定の単元の明記や目標の明示をしていく。【発見】 ・ 意見と根拠だけではなく理由づけに注目できるように考えを図式化できるよう、対話的な指導を行う。【決定・対話】	B	
数学	・ 式や問題文を読み取り、何を聞かれているのかを理解する力が低い生徒がおり、手が止まってしまう。 ・ 自分の間違えた問題を解けるまで解くという習慣がない生徒が多い。	・ 式や問題文を読み、見通しを立てさせる、それをクラスメイトと共有する活動を通して、何を聞かれているのかを理解して、問題に取り掛かれるようにする。 ・ 授業プリントや問題集の取り組みをみて、声掛けをしていく。	B	
理科	・ 計算、化学反応式など、科学的思考分野が苦手な生徒が多い。授業ではできていてもテストではできない生徒もいて、反復練習が不足している。	・ 苦手な問題を放置しないように、小テストを何度も繰り返し克服させていく。 ・ 計算問題は時間をかけ、学びあいを通して一度は理解させる。その後は反復練習で身に付けさせる。	C	
社会	・ 毎授業で資料読み取り問題を記述で答えさせているが、必要な情報を抜き出すことに不慣れな生徒もあり、社会的問題や事象について考察する力が乏しい。 ・ 各種試験において、単語を覚えるだけにとどまっている生徒が多く、深い学びにつながっていない。また初めて見る資料の読み取りを苦手としている。	・ 授業時に記述を終えた後、周り話し、情報共有を図るとともに、お互いに良い意見や考えを書いていた人をお互いに褒めあう、うまく書けていなかった人にはアドバイスを送る時間を取る。【対話】【表現】【決定】 ・ 教師の解答だけでなく、生徒の良かった解答を全員で共有できるような機会を作っていく。【発見】	B	
音楽	知識・技能の定着を図り、それを生かして曲想と楽譜中の記号や歌詞との関わりを考えながら歌い方を工夫する力を身に付けさせる。	楽典の授業を充実させ、楽譜を読む力を伸ばす。題材間で内容に関連付けることで、知識・技能の定着を図りながら、活用できるようにする。	B	
美術	・ 少ない時数の中で計画的に取り組み、作品を仕上げ完成させるために学習進度を調整する力が不足している。 ・ 主題から発想を広げ、既存のものに捉われず、さまざまなものを組み合わせ、自分らしくよりよいものを表現するための構想を練る力が弱い。	・ ICT 機器で授業の提出締め切りを周知することや授業の残りの回数などを授業毎に伝えるなど、計画的に取り組むことができるような環境を整える。【決定】 ・ 自分らしい表現ができるように表現技法や色の基礎知識の紹介、助言などを継続的に行う。【発見・対話】	B	
技術	・ 全体的に知識や理解が足りない生徒が多い。 ・ 屋外で作業をする際に前もって説明した内容を理解せずに作業に臨み間違える生徒がいる。	・ 生活で起こりうる出来事と絡め、「自分ならどうするか」という観点を持って学習できるようにする。【発見・決定】 ・ 説明をした際にグループ内で確認及び共有を行い、共通理解をしてから作業に入るようにする。【対話・決定】	B	
家庭	・ 生活経験の差からか、生活に関する題材への興味関心に差がある。 ・ 疑問点をインターネット検索によって解決しようとする姿をよく見る。 ・ 基礎的な知識の定着は不十分である。	・ 個人またはグループで学習内容を深める活動をさせる。ドキュメントやスライドなどタブレットを活用し、個別最適な授業を行うことで自己調整力を身につけさせる。【発見・対話・表現】 ・ フォームで、授業内容をワークシートにそった形で出題し回答させる。書くことによるインプット、回答によるアウトプットをさせ、知識の定着を図る。【決定・表現】	B	
保健体育	・ 授業で取り扱った運動について、言語化及び文章化することに課題がある。 ・ 授業で取り扱った運動について、言語化及び文章化することができても実際に行うことに課題がある。	・ 全体への発問を繰り返すことで、言語化及び文章化を手助けする。【対話】 ・ 運動のポイントを明確にし、生徒同士で学び合う環境を設定する。【対話・表現】	B	
外国語	・ 読む、書く、聞く、話す、やり取りをする、この5つのバランスを授業内でいかにしてうまくとるかが課題である。 ・ 積み重ねが重要な教科において、1 学年で学習した内容の定着が不十分な生徒が見られる。	・ 1 時間の授業ですべての項目を実践するのは難しい。単元ごとにバランスを考えて、すべての項目が実践できる計画を立てる。 ・ 2 学期の少人数授業において、基礎定着ができていない生徒を抽出して基礎クラスとして授業を行う。	B	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和7年度 府中市立府中第二中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	・漢字の読み書きについて決められた範囲の学習はできるが、定期考査以降に定着していない。 ・文章と自分自身のこれまでの見聞を結び付ける力が弱い。	・授業内や朝学習の時間を利用して、漢字の反復学習する機会や、見通しをもって自己調整しながら学習する機会を設定し、基礎学力の定着を図る。【発見・決定】 ・根拠を明確にするだけでなく、意見と根拠を結び付ける理由付けを意識させる。【決定・表現】	A	
数学	基礎の計算力・既習事項の定着が弱い生徒が多い。 問題などの内容を読み取り、解答に結び付ける力が弱い	朝の学習時間を利用して、1・2年の基本計算の復習をおこなう。【表現】 各クラス共通の学習プリント、補充問題プリントを活用して基礎・資本の定着をめざす。【発見、表現】 問題の内容を丁寧に解説し、その考え方や解法を分かりやすく示す。【発見、解決】	A	
理科	・各種計算問題に苦手意識を感じている生徒が多い。 ・学習したことを活用したり、応用したりする力に課題がみられる。 ・実験の結果から考察し、文章で表現する力は身に付いてきている。	・基礎的な問題演習、小テストを実施する。【発見】 ・知識の再構築と実生活への橋渡しを意識させ、活用・応用を意識した課題設定をする。また、学習内容の相互関係を理解させ、応用力を育成する。【決定・表現】 ・メタ認知を促す振り返り活動を強化し、活用場面を自覚する力を育てる。【発見】	A	
社会	・単元のまとまりの中で、学んだことや学んだことが今後にどう活かせるか、自身の理解度に対して適切な認識、表現をできる生徒が少ない。 ・教えられた内容の理解はできるものの、それを他者に順序立てて説明する力が身に付いておらず、断片的な知識の羅列になってしまう。 ・課題の解決に向けて、複数の資料を読み取り、それをつなげて自分に合った表現で視覚化する方法が身に付いていない。	・単元の振り返りシートに学んだことや次に活かせること、課題解決に何を活用したかなどメタ認知を高める欄を作成するとともに、表現の例示を行う。【発見】 ・授業のはじめに生徒間で前時の内容説明を行い、相互で対話、肯定の場を継続的に設ける。【対話・表現】 ・単元の振り返りシートに思考ツールを盛り込み、多様な表現方法の理解につなげる。【決定】【表現】 ・課題解決学習で自分の考えを共有、修正する機会を設ける。【決定】【対話・表現】	A	
音楽	身に付けた知識や技能を活用しながら、曲の歴史的背景・歌詞の内容・音楽の特徴を総合的に捉えて鑑賞・歌唱する力を身に付けさせたい。	楽曲の捉え方の見本を楽曲の音楽的な特徴や歴史的背景を生徒自身に調べさせたり、考えさせたりする機会を設定する。	B	
美術	・少ない時数の中で計画的に取り組み、作品を仕上げ完成させるために学習進度を調整する力をつけさせたい。 ・主題から発想を広げ、既存のものに捉われず、さまざまなものを組み合わせて、自分らしくよりよいものを表現するための構想を練る力が弱い。	・ICT 機器で授業の提出締め切りを周知することや授業の残りの回数などを授業毎に伝えるなど、計画的に取り組むことができるような環境を整える。【決定】 ・自分らしい表現ができるように表現技法や色の基礎知識の紹介、助言などを継続的に行う。【発見・対話】	A	
技術	・問題の意図を理解せずに課題に取り組む生徒が多かった。	・課題に取り組む前の時点で補足を入れ、迷うことなく取り組めるようにする。【発見】	A	
家庭	・生活経験の差からか、生活に関する題材への興味関心に差がある。 ・疑問点をインターネット検索によって解決しようとする姿をよく見る。 ・基礎的な知識の定着は不十分である。	・映像や生徒用のWEBサイトの教材などを適宜活用し、生徒が主体的に学び、自分で考えさせる授業を行う。【発見・対話・表現】 ・フォームで、授業内容をワークシートにそった形で出題し回答させる。書くことによるインプット、回答によるアウトプットをさせ、知識の定着を図る。【決定・表現】	A	
保健体育	・合理的な動きへの思考力が低い。ポイントを聞き表現しようと粘り強く練習することはできるが、自分に合った歩数やどのようにしたらよりスピードが上がるのか動きを工夫し表現する力が弱い。	・ICTを活用し、視覚的に自身の課題を理解させる。【決定】 ・グループワーク・ペアでの活動を通し、得意な人が苦手な人へアドバイスを行う場面を意図的に作る。【発見・対話】	A	
外国語	・単語や語彙の習得においては粘り強く取り組む生徒が多い。 ・学んだ知識を使って、自分のことや意見等を英語で書いて表現したり、話したりすることに苦手意識がある生徒が多い。	・テーマを与えて英文を書いて表現する活動を定期的に行う。 ・ALT との授業の中でディスカッションやディベートを行い、自分の意見を他者に伝えたり、自分の意見をまとめて書く活動を定期的に行う。	A	

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。